Ⅱ　全国学力・学習状況調査の結果

1　芦別市内の状況及び今後の改善方策（概要版）

小学校数:2校、児童数:48人（第6学年）
中学校数:1校、生徒数:57人（第3学年）

○　教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

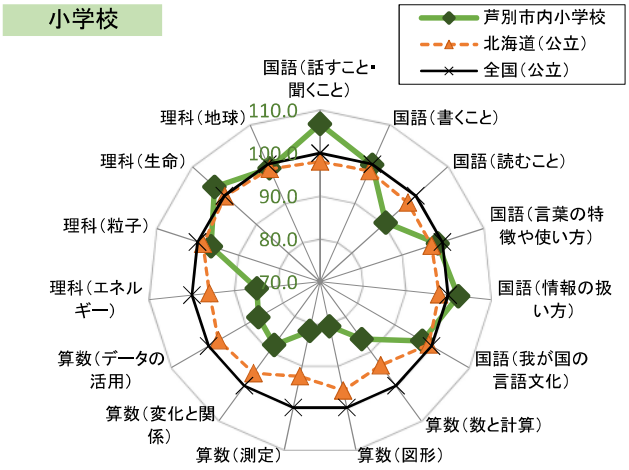
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

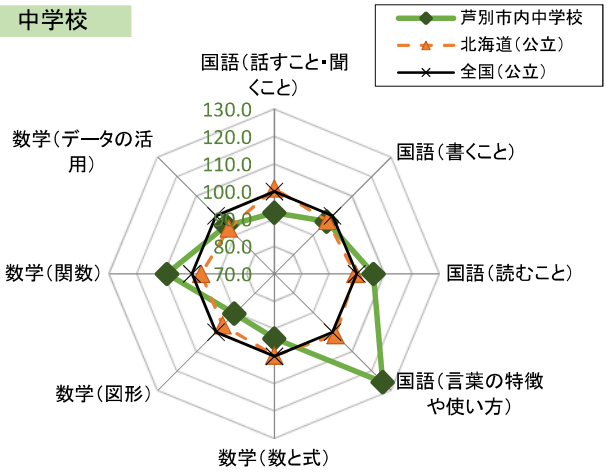
【平均正答率・平均IRTスコア】　※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
芦別市	66.4	49	55	55	46	516
北海道（公立）	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国（公立）	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

小学校



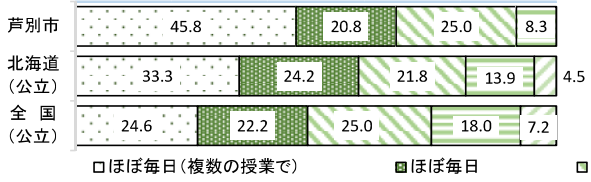
中学校



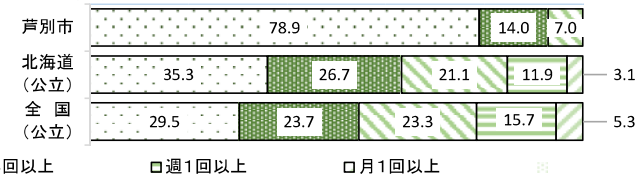
○　質問調査の状況

小学校

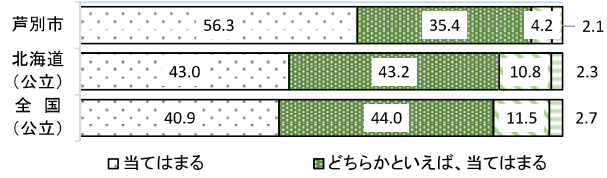
・5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

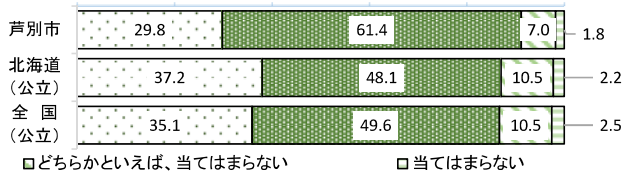


中学校

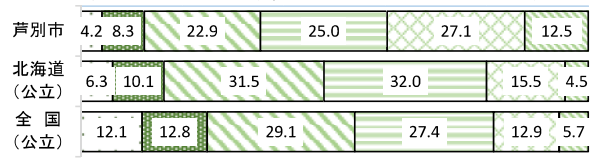


・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか





・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどのくらいの時間勉強しますか。



○　調査結果の分析

・「主体的・対話的で深い学び」の授業改善として、芦別市が取り組んでいる「芦別スタンダード」において、話し合い活動における協働やまとめの発表、振り返りなどに活用できるアプリを市内で共有し、タブレットの活用を進めた結果、PC・タブレット等のICT機器の使用頻度が、小学校でほぼ毎日が7割近く、中学校が9割を超える利用まで高まったと考えられる。

・各学校で、児童生徒同士がやりとりする場面で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると肯定的に回答した児童生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

・小学校で学校の授業時間以外に普段一日当たり1時間以上を勉強している児童の割合は35.4%で全国の54.0%比べかなり少なく、全く勉強しない児童の割合が12.5%となっている。中学校は、1時間以上勉強している生徒の割合は56.2%と全国の61.6%よりやや少ないが、2時間以上勉強している生徒の割合は全国の半分程度であることから、校内で統一した家庭学習の習慣化の取組を推進していく。

○　今後の改善方策

・学力向上のため、家庭での学習時間を増やすことが芦別市の喫緊の課題であることから、家庭の理解と協力のもと、タブレットを持ち帰り、今年度本格導入されたAIドリル（ミライシード）の活用により、家庭学習の質の向上を図る。

・芦別市で配置している学習サポート教員や特別支援教育支援員を活用し、学習に困り感のある伸びしろ層を中心に学力の底上げを推進する。